

やまとの名品

天理図書館



きゅうりょう
弓猫図 (溪流前)

えぞ
「蝦夷風俗屏風」のうち

ひらさわびょうざん
平澤屏山画 縦75・8 cm
横28・8 cm

古来、アイヌの人たちは自然と共に生き、その恵みに感謝の祈りを捧げて生きてきた。しかし文字や絵画を遺さなかったの
で、その歴史は明らかではない。

一方、江戸時代後期から明治初期、和人画家によって描かれたアイヌ絵はその生活や風俗を衆人に知らしめる役割を担った。

掲出の絵は平澤屏山画「蝦夷風俗屏風」のうち『弓獵図（溪流前）』。急流の前で狩獵する勇猛なアイヌ男性を描いている。獲物を見つけたのであろうか目が鋭い。

屏山は文政五年（一八二二）現在の岩手県花巻市に生まれ、長じて箱館（函館）で絵馬を描

いて生活していたが、やがてアイヌの人たちと生活を共にしながら数多くのアイヌ絵を遺すことになる。屏山の絵は評判となり、箱館商人や来航外国から注文を受けるまでになった。

屏山はアイヌ集落で好物の酒を飲むばかりで絵筆を持たない時間も多かった。英国軍人で貿易商のブラキストンは屏山の絵を好み、高額な値段で絵を注文した。ところが屏山は酒にひたり中々製作に取りかからず、しびれをきらしたブラキストンから毆打されたこともあった。しかし、一旦描き始めると仕



事に没頭し見事な絵を完成させた。現在知られるアイヌ絵は屏山の絵が圧倒的に多い。

本文中のカット図は「蝦夷風俗十二ヶ月屏風」のうち『六月昆布採之図』。遠方に描かれるのは和船。和人から労働を強いられていた歴史を物語るものでもある。

（天理図書館 早田一郎）